

『(仮称)YR^{こいゆたか}恋豊 (E8079YR)』の 産地試作事例

雪印種苗(株)
畑作園芸本部 営業課

茨城県のキャベツは、年間約1900haの作付けがあり（平成17年度野菜生産出荷統計参照）、春797ha、夏秋478ha、秋冬626haの作付け割合となっています。中でも、結城市から八千代町にかけての県西地区は、その内の約8割の作付けを占めている産地であります。

今回報告させていただきますのは、弊社新発表品種であります『YR恋豊 (E8079YR)』の試作事例を紹介させていただきます。

茨城県の県西地区である結城市から八千代町の地区は、夏から秋冬にかけ

て、キャベツ、ハクサイ、レタスの作付けが多く、近年、市場出荷より加工業者等への契約栽培が多くなっている地区でもあります。

近年、キャベツの主要な産地においては、キャベツ、ハクサイ、イチゴ、ナス、トマト、ダイコン、ジャガイモ、キクなど多くの作物に多犯性を持つパーティシリウム菌によるパーティシリウム萎凋病の被害拡大の危険性が懸念されつつあります。

キャベツにおけるこの病害は、発病適温は20～24℃で、土壌湿度はやや低い方を好み、キャベツの葉が萎れ黄

化する病気になります。一見、黒腐病の病徴と類似している部分がある病気でもあります。

茨城県での発生事例は公式にないのですが、多犯性の部分から懸念されつつある病害であることから、今回試作することになりました。

今回、7月の中下旬の播種にて試作をおこなった結果、農家様より次のコメントを頂きました。

- ・外葉がやや短くコンパクトで立性であるため、葉散作業が比較的容易である。



『YR恋豊』の栽培圃場



『YR恋豊』

- ・初期、外葉がコンパクトであるため肥大が十分になるのか心配ではあったが、後半の肥大が旺盛であった。
- ・正円の扁平球で濃緑、2Lの規格においても非常に箱詰めしやすい。
- ・寒玉の品種の中では、食味が良い。
- ・病気の面において他社品種に比べ在圃性があった。
- ・初期には生食用、後半には加工用と

兼用可能な品種である。

- ・寒玉系の品種の中では、芯が柔らかく、収穫作業も容易であった。

昨年秋から冬にかけてキャベツの価格が低迷していた中、今回ご試作頂きました『YR恋豊』は、10月18日から11月上旬にかけて収穫期となり、予定よりも早期出荷が可能

となり、非常にご好評頂きました。

本年は、昨年結果より『YR恋豊』の特徴を活かし、計画的な出荷体系の中に取り入れたいとのコメントを頂きました。



『YR恋豊』の出荷箱



『YR恋豊』の箱詰め状況